

■ 教育部会

桑崎實弘副議長

以上で、産業部会の質問を終わります。

次に、教育部会 47番 宇都宮工業高等学校 鈴木淑子さん、34番 宮の原中学校 谷澤光さん。

47番 鈴木淑子議員

議長、47番

34番 谷澤光議員

議長、34番

〔47番 鈴木淑子議員 34番 谷澤光議員 登壇〕

47番 鈴木淑子議員

47番 宇都宮工業高等学校 鈴木淑子です。

まず、いじめについて質問します。

今、学校では、仲間はずれや暴力などのいじめがあります。その原因として、外見なこと、性格的なこと、対人関係のトラブルがあります。

しかし、いじめを改善することは難しいことです。そこで、宇都宮市としてどのような対策をしていますか。

現在、中学校に「心の教室」という相談場所が設けられていますが、どうして「心の教室」を設けたのでしょうか。実際は、生徒のたまり場になってしまっていたり、行きづらいなどとあまり有効利用されていないようです。

次に先生について質問します。

授業中に、授業と関係ない話ばかりする先生がいたり、同じ教科でも授業の内容・進め方に違いがあったりと、先生によって生徒の学力に差が出てきているようです。生徒として、先生には、分かりやすく楽しい授業を求めていると思います。

そこで、授業をよりよいものにするために、先生同士での情報交換は行われているのでしょうか。また、先生自身が授業内容を見つめ直す機会はあるのでしょうか。

生徒である私たちが先生を選ぶことはできません。これから義務教育の中で生徒が先生を選ぶということは可能なのでしょうか。

以上で質問を終わります。よろしくお願いたします。

34番 谷澤光議員

34番 宮の原中学校 谷澤光です。

完全学校週5日制に伴う、土曜日の過ごし方について質問いたします。

学校週5日制の考えがはじまったのは、昭和52年のゆとり教育までさかのぼります。その取り組みは、授業時数の削減や時間割に「ゆとり」の時間や学校が自由に使える時間がありました。

このゆとり教育の実施に伴い、週5日制実施の考え方が現れました。その実現までの経緯については、まず、平成4年4月から月1回の土曜日が休業となりました。

次に、平成7年、第2・第4土曜日が休業となりました。そして、平成11年、完全学校週5日制が実現されました。この完全学校週5日制の目的は、多彩な生活経験、自然体験、社会体験、文化、スポーツ活動など、教室だけではできないことを経験することです。

そうすることで、学校や家庭、地域社会が一体となり、小・中・高校生の「生きる力」を高めることにつながります。

では、中学生、高校生の現状は、どうなっているのでしょうか。そこで、平成17年7月に、中高生約100人にアンケート調査を実施しました。

その結果、土曜日の中・高生の生活としては、先生や友達と部活動を行っている人が71%、1人または友達と遊ぶ人が68%です。それに比べて、地域の人と地域での交流活動を行っている人はわずか3%でした。

このように、土曜日に地域の方々と活動する中高生は、ほとんど見られませんでした。このような状況でいいのでしょうか。市では、週5日制の目的を達成するため、どのような取り組みをしていますか。具体的にお答えください。

また 私たちとしては、「中高生の運動部の部活動のチームと社会人のチームとの交流試合の実施」、「地域の子どもや大人が共に考え、共に計画して楽しめるような文化祭の実施」など、このような年齢や性別を問わず、誰もが主役になれる地域での交流活動を行うことが望ましいと考えられますが、市としてはどのようにお考えでしょうか。具体的に教えてください。

以上で質問を終わります。よろしく願いいたします。

大野薫教育次長

議長，教育次長

桑崎貴弘副議長

教育次長

〔大野薫教育次長 登壇〕

大野薫教育次長

鈴木議員のご質問にお答えいたします。

まず、「いじめと先生について」のうち、「いじめ対策について」ですが、議員の皆さんも心を痛めているように、学校でのいじめがなくなる状況にあります。

現在、各学校では、いじめは絶対に許されないとの認識をもち、様々な体験活動や、望ましい集

団づくりなどを通して、思いやりの心や正義感を育てる指導に学校全体で取り組んでおり、また、日頃から、児童生徒の様子に気を配ったり、定期的に教育相談を行ったりして、いじめの早期発見・早期対応に努めています。

今後も、これらの取組の充実に努めていきますので、児童生徒の皆さんにも、いじめのない学校の実現に主体的に努力してほしいと考えています。

次に、「心の教室の設置理由について」ですが、心の教室は、いじめなど様々な悩みや心配ごとを抱えている中学生のために設置され、相談員との対話などを通して、心の安定などに効果を上げています。

しかしながら、学校によっては、議員ご指摘のような状況も見られますので、相談したい生徒が気軽に利用できるよう運営を工夫したいと考えています。

次に、「先生について」のうち、「先生同士の情報交換や、授業内容を見つめ直す機会について」ですが、各学校では、授業研究会を計画的に実施するとともに、市教育センターの研修に参加するなどして、授業を振り返り、改善を図っています。

さらに、先生同士が日々の授業を見せ合い、情報交換をしていくことが大切であると考えていますので、今後とも、そうした取組が各学校で充実するよう努めていきます。

次に、「生徒が先生を選ぶことについて」ですが、本市では、今後も先生一人一人が、分かりやすく魅力のある授業を行うため、指導力の向上に努めますので、小・中学生の皆さんには、先生を選ぶことよりも、学校の指導計画に基づいて基礎・基本を身につけ、自分の興味・関心や将来への希望を大切に、熱心に学んでほしいと考えています。

また、皆さんには、自分の良さを発揮し、共に学び協力して活動する喜びを感じながら、活気あふれる学校生活を送ってくださることを期待します。

続きまして、谷澤議員のご質問にお答えいたします。

「完全学校週5日制に伴う土曜日の過ごし方について」ですが、週5日制は、皆さんが学校だけでは経験することができない様々な体験や活動を通して、「生きる力」を育むことを目的としたもので、土曜日には、家族と過ごしたり、友達と遊んだり、地域の活動に参加したり、自分の活動を自分で選択できるようになりました。

本市では、皆さんの活動を支援するために、子ども情報センターホームページや情報誌「こどもツクル」により、体験活動の情報を提供するほか、美術館やプールなどの社会教育施設を高校生まで無料開放しています。

次に、ご提案いただいたスポーツ交流や文化祭などの、地域での交流活動に中・高生が参加することは、様々な社会性を身につけられるほか、地域に活力が生まれることにもつながり、たいへん重要であると考えています。

市としては、皆さんが地域の様々な事業や活動へ参加しやすいように、関係団体に働きかけていきますので、今後、皆さんが活動する際には、地域の情報を持っている青少年指導員に相談するなどして、積極的に参加されることを期待しています。

桑崎貴弘副議長

以上で教育部会の質問を終わります。

発言通告者の発言は終了しましたので、一般質問を終結いたします。